

子どもの発達に関する母親の期待内容

誌 摩 武 俊 (東京都立大学心理学研究室)

はじめに

母親は子どもに対してこのように育てたいという望みをもつ。これを発達期待という。発達期待をもち得るのは、人間の子どもは生後の環境によってつくられる余地が大いからである。こんな子どもに成長して欲しいという期待があるからこそ母親は育児に情熱をもてるともいえる。

発達期待の内容には健康であって欲しいというような普遍的な願望もあるが、精神発達に関しては母親相互間に、ある程度の差異があるのではないと思われる。たとえば、ある母親は自己主張のはっきりした、意志の強い子どもに成長することを期待し、他の母親は協調性の豊かな、おだやかな子どもに成長することを期待している。期待内容が異なれば、当然、日常のしつけも異なり、似たようなことをしてもある子どもは叱られ、他の子どもは叱られないということも生じてくる。そしてその結果、子どものパーソナリティの発達にも大きな影響を与えるということになる。

発達期待の内容には母親間の個人差のほかに広義における文化の差が反映している。時代や地域、あるいは階層による差異である。同じ大都市に居住する給与生活者の家庭であっても昭和10年代の親が子どもに望んだことと、現在の親のそれとは大きな違いがあるであろう。時代としては同じであっても日本の母親が子どもに期待することと、アメリカの母親が子どもに期待することとは決して同じではない。東洋、柏木恵子、R. D. Hessの研究(「母親の態度・行動と子どもの知的発達」東京大学出版会、1980)によると、全般的にみて、日本の母親は素直できげんが良く、手がかからない子どもに早く育つように期待し、米国の母親は友だちに対してもおとなに対してもはっきりと自己主張のできる自立心の強い子どもに育つことを期待している、ということである。これは日米両国の幼児とその母親に対して、周到な準備の上でなされた比較研究の一部である。

本研究の目的

母親の子どもに対する発達期待の内容の実態を知ることが主なる目的である。

研究方法

主として質問紙法による。それに若干の面接調査を加えた。対象者は593名。すべて幼稚園児をもつ母親である。表1に示した、子どもの発達に関する34項目を示し、それに下記の教示を加えて記入を求めた。回答には母親の年齢、学歴の記入を求めたが氏名の記入は求めなかった。34の項目は前記の東洋の研究に用いられたものの中から引用したものである。

教示「子どもは成長するにつれていろいろなことができるようになります。次の項目の中で、その内容が

- 4歳になるまでにできるようになって欲しいものには 1
- 4～5歳頃にできるようになって欲しいものには 2
- 6歳すぎにできるようになって欲しいものには 3 と記入して下さい

このほかに補足的に「幼稚園に行っているお子さんに対するあなた自身の態度と、あなたが幼稚園(就学前)児であったときに、あなたの母親があなたに対する態度とを比較して答えて下さい」と教示して現在20歳代の後半から40歳代の母親と、その母親の記憶の中にある自分の母親(子どもから見ると祖母)の育児態度の比較を求めた。この結果は表2に示した通りである。

結 果

593名の対象者が34の項目のそれぞれに1乃至3の数字を記入し、それを集計して単純に平均を求めた。それが表1である。年齢の早いうちから出来るようになることを期待している項目から順に示した。

カテゴリーの中で「学校」と示したのは学校関

係スキル, 「情緒」というのは情緒的成熟, 「社会」は社会的スキル, 「言語」は言語による自己主張である。

全般に, さきに述べた日米比較研究で明らかにされた日本側の資料と大きな差はなく, 素直に親の指示に従い, 手のかからない子どもになって欲しいという親の願望が示されている。言語を用いてははっきりと自己を主張するとか, 自分の考えを説明するということや, 友だちに対して指導性を発揮するとか, 理解できないときに納得のいくまで説明を求めるといった項目は, 比較的あとになってからできればいいと母親は考えているようである。

対象者を高校卒, 短大卒, 大学卒の学歴別に分けて比較してみた。表1に示した通り各項目の平均点は2.03, 1.98, 2.01でほとんど差がない。大学卒の母親と高校卒の母親を比較してみると, 大学卒の母親の方が「悪いことをして注意されたらすぐやめる」とか「親からいわれたらなぜなのかよくわからなくてもいうことをきく」というような従順さに関する項目, 及び「質問されたらきはき答える」, 「希望や意見を聞かれたらはっきり述べる」, 「友だちと考えが合わないとき, けんかをせずに適当な解決がつけられる」というような項目, つまり子どもらしさを失わないで, おとなにいい印象を与えるような項目内容が早く発達することを望んでいるようであった。これに対して高校卒の母親が高学歴の母親よりも早期に発達することを望んでいる項目は「興味のあることを図鑑や事典で調べる」という学校スキルに関することと「衣類の着脱に関すること, それに自分の考えを他人にわかるように説明できる」という項目であった。

母親の年齢を29歳以下, 30歳から35歳, 36歳以上の3群に分けてみた。34項目の平均点は表1に示したように2.03, 2.02, 2.04で差は認められなかった。

今回の対象者はすべて大都市に住む母親たちである。その母親たちの子どもに対する発達期待の内容にはとくに著しい年齢差, 学歴差は認められなかった。しかし資料はまだ十分な分析がなされていないので, 詳細な結論はさらに検討を必要とする。

表2は大都市に住む幼稚園児の母親が自分の子どもに対する態度と, 自分の幼女期に自分の母が自分に対しした態度とを比較した結果である。直接, 祖母にあたる婦人から得た資料ではなく, 母親の記憶の中にある姿である。それでも項目間の差を比較してみると興味深い。生活にゆとりがあって, 子どもとよく遊び, おもちゃをたくさん買ってやり, 知的なことを教えているのは自分たちであると思っている母親が多い。しかしまた体罰をよく加えているのも自分であると思っている母親が, 自分の母親が自分に加えたことよりも多いと思っているものの約5倍もいる。さらに子どもにやさしいのは, 自分よりもむしろ自分の母であると思っているものが全体の約3分の1はいる。

全体に子どもに対する働きかけは自分の方が多いと思っているようである。

なお, この母親たちのもっている子どもの数であるが, ひとりっ子が18.1%, 2人が65.3%, 3人が15.5%, 4人以上は1.1%であった。全体の約13%が20歳代の母親なので, 今後生まれる可能性もあるが, 子どもの数は著しく減っているといえる。

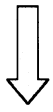
表2 自分と自分の母の育児態度の比較 (対象者593名)

	自分	自分の母	同じくらい
1. 子どもとよく遊ぶのは	74.5%	7.3%	18.2%
2. おもちゃをよく与えるのは	65.1	9.6	25.2
3. 生活にゆとりがあるのは	59.6	15.3	25.2
4. 知的なことをよく教えるのは	58.7	12.8	28.4
5. 体罰をよく加えるのは	56.3	11.7	31.9
6. 子どもに頼られているのは	33.8	19.0	47.1
7. 子どもにやさしいのは	23.7	33.8	42.5

表1 発達期待の内容

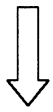
	N=593	学 歴 別			年 令 別		
		高 校 N=258	短 大 N=202	大 学 N=133	29才以下 N=78	30-35才 N=363	36才以上 N=152
1 自立	1.09	1.08	1.09	1.10	1.08	1.06	1.18
2 礼儀	1.17	1.19	1.16	1.14	1.10	1.12	1.32
3 従順	1.26	1.28	1.28	1.22	1.23	1.24	1.34
4 自立	1.28	1.32	1.23	1.26	1.33	1.22	1.37
5 情緒	1.31	1.36	1.27	1.29	1.44	1.25	1.39
6 自立	1.42	1.45	1.37	1.43	1.51	1.34	1.56
7 社会	1.49	1.51	1.44	1.53	1.64	1.45	1.50
8 従順	1.58	1.66	1.56	1.46	1.54	1.59	1.59
9 情緒	1.66	1.71	1.59	1.67	1.77	1.60	1.74
10 従順	1.73	1.82	1.73	1.57	1.78	1.72	1.73
11 礼儀	1.75	1.77	1.73	1.75	1.64	1.71	1.91
12 社会	1.78	1.86	1.70	1.74	1.74	1.75	1.87
13 情緒	1.86	1.87	1.88	1.80	1.74	1.86	1.90
14 自立	1.88	1.87	1.84	1.94	2.00	1.84	1.88
15 自立	1.91	1.85	1.90	1.95	1.89	1.91	1.92
16 社会	1.95	1.96	1.94	1.92	1.85	1.95	1.99

17	自立	きまってお手伝い(テーブルにおちわんを並べる,ゴミを捨ててくるといった)ができる	2.01	2.04	1.97	2.02	1.85	2.02	2.09
18	言語	質問されたら,はきはき答える	2.05	2.12	1.98	2.01	2.20	2.52	2.20
19	言語	納得がいかない場合は説明をもとめる	2.16	2.21	2.12	2.14	2.15	2.04	2.01
20	情緒	がっかりしたり(ゲームで負けてしまったり,風船がこわれたり)欲求不満になった時でも泣いてしまわずがまんできる	2.16	2.16	2.18	2.13	2.08	2.17	2.18
21	自立	1時間くらい1人で留守番ができる	2.23	2.23	2.16	2.33	2.24	2.21	2.28
22	従順	いいつけられた仕事はすぐにする	2.32	2.33	2.28	2.37	2.21	2.31	2.39
23	言語	自分の考えを他の人にちゃんと主張できる	2.37	2.40	2.32	2.39	2.41	2.37	2.35
24	社会	友だちと遊ぶ時,いいなりになるだけでなく,リーダーシップがとれる	2.37	2.38	2.34	2.39	2.47	2.36	2.34
25	言語	希望や意見をきかれたら,はっきり述べる	2.38	2.46	2.29	2.38	2.44	2.39	2.33
26	社会	友達を説得して,自分が考えていること,したいと思っっていることを通すことができる	2.40	2.41	2.35	2.45	2.41	2.42	2.33
27	自立	一人で電話がかげられる	2.51	2.55	2.41	2.56	2.58	2.53	2.41
28	社会	友だちと考えが合わないとき,けんかをせずに適当な解決をつけられる	2.52	2.54	2.55	2.44	2.57	2.42	2.55
29	言語	自分の考えや,どうしてそう考えるのかということを他の人にかかると説明できる	2.57	2.51	2.61	2.64	2.59	2.60	2.49
30	従順	面白い本やテレビを見ているのに,お母さんの手伝いを頼まれた時すぐやめて手伝う	2.63	2.65	2.61	2.62	2.60	2.65	2.62
31	学校	30ページぐらいの絵の多い童話を一人で読み通すことができる	2.64	2.67	2.60	2.65	2.77	2.64	2.58
32	学校	時計がよめる(15分単位ぐらいまで)	2.65	2.63	2.67	2.65	2.67	2.69	2.55
33	学校	興味のあることを,図鑑や事典でしらべる	2.73	2.51	2.61	2.64	2.69	2.74	2.70
34	自立	お小遣いを大事にちゃんと使える	2.91	2.75	2.70	2.73	2.92	2.91	2.89
平均			2.02	2.03	1.98	2.01	2.03	2.02	2.04



検索用テキスト OCR(光学的文字認識)ソフト使用

論文の一部ですが、認識率の関係で誤字が含まれる場合があります



はじめに

母親は子どもに対してこのように育て欲しいという望みをもつ。これを発達期待という。発達期待をもち得るのは、人間の子どもは生後の環境によってつくられる余地が大いからである。こんな子どもに成長して欲しいという期待があるからこそ母親は育児に情熱をもてるともいえる。

発達期待の内容には健康であって欲しいというような普遍的な願望もあるが、精神発達に関しては母親相互間に、ある程度の差異があるのではないかと思われる。たとえば、ある母親は自己主張のはっきりした、意志の強い子どもに成長することを期待し、他の母親は協調性の豊かな、おだやかな子どもに成長することを期待している。期待内容が異なれば、当然、日常のしつけも異なり、似たようなことをしてもある子どもは叱られ、他の子どもは叱られないということも生じてくる。そしてその結果、子どものパーソナリティの発達にも大きな影響を与えるということになる。

発達期待の内容には母親間の個人差のほかに広義における文化の差が反映している。時代や地域、あるいは階層による差異である。同じ大都市に居住する給与生活着の家庭であっても昭和10年代の親が子どもに望んだことと、現在の親のそれとでは大きな違いがあるであろう。時代としては同じであっても日本の母親が子どもに期待することと、アメリカの母親が子どもに期待することとは決して同じではない。東洋、柏木恵子、R.D.Hessの研究(「母親の態度・行動と子どもの知的発達」東京大学出版会、1980)によると、全般的にみて、日本の母親は素直できげんが良く、手がかからない子どもに早く育つように期待し、米国の母親は友だちに対してもおとなに対してもはっきりと自己主張のできる自立心の強い子どもに育つことを期待している、ということである。これは日米両国の幼児とその母親に対して、周到な準備の上でなされた比較研究の一部である。